



第6回 総会 & 現地報告会開催 大阪・現地報告会 《別紙》第6回総会資料



放課後、家の仕事の手伝いをする子どもたち

9月13日に6回目の総会を無事、行うことができホッとしていた矢先、アフガニスタンから悲しい知らせが入りました。山の学校の強力な現地支援者であるサースディンが心臓発作で亡くなったということです。彼と知り合ったのは36年前。訪れるたびに、「オマール(私の現地での通称)、よく来た」と大きな体と手で包み込むように抱きしめてくれました。97年、パンシールに逃れてきた難民たちの姿に、「胸が粉々になりそうだ」と話した彼の悲痛な表情が忘れられません。心から冥福を祈りたいと思います。

タリバーンが各地で攻撃を強め、政情不安が強まっているアフガニスタンですが、先日、サフダル校長から電話がありました。何事かと身構えてしまいましたが、「オマールは元気か? 日本の支援者の皆さんは元気か? 子どもたちもみんなによろしくと言っていたよ」という内容に拍子抜けしました。でも、自分たちの方が大変なはずなのに、私たちのことを気遣ってくれていることに心が温かくなりました。政府から新しい女性教師が一人、赴任してきたといううれしいニュースも届いています。

わが日本では新しい政権が誕生しましたが、米国や国際社会の顔色を窺うばかりで、アフガニスタンの平和を創り上げるために何ができるのかという積極的な姿勢は見えません。アフガニスタンの人々こそが、一番に平和を望んでいることをしっかりと心に刻めば、おのずと日本が採る道も見えてくると思うのですが。

山の学校の子どもたちが愛してやまないアフガニスタン。その大地に一刻も早く平和が訪れることを願うばかりです。

長谷洋海

第6回総会 & 現地報告会開催

9月13日(日)武蔵野芸能劇場にて開催。
今回は92名(会員52名・一般40名)の方々に参加いただきました。

【総会】***

当日はアフガニスタン大統領選挙の開票中の期間でもあり、その政治的状況の混沌についてふれた長倉代表の挨拶からはじまりました。

〈10年後にはアフガニスタンの再建も進み人々の平和への願いも叶うだろう、そういう日がおとずれていくだろうという気持ちで会を立ち上げ、こうして多くの人たちに賛同していただき活動を続けてきました。が、現実には、6年目の現在、タリバーンの力が強まり、各地でテロによる攻勢も強まり、また、政府の間

スライドショーはこんな大きさ



題も多々あるのが現状です。しかし、アフガニスタンの人々は戦争ではなく、平和を求めているのです。日本に比べるとそこが抜け落ちて、二ユー

スばかりが伝えられます。そこにいる普通の人の気持ちが問題の点だと思えます。人々が平和を強く願っているというのを私たちがどこかでいつも心にとめ、その願いに寄り添うように会の活動をすすめていくことに意味があると思っています。

引き続き、副代表の比留川より毎月行われている運営委員会についての説明を含めた活動報告をいたしました。

〔国内〕会員数が増えたことにあわせ、寄付その他でも有形無形に支援していただけたということ、各地で実施されたパネル展がたいへん好評につき、貸し出しは会員以外の方々に向けてもできるように、今後は具体的に考えていきたいというところ、などを報告いたしました。

〔現地〕前回の現地訪問の際の先生方の給料アップの要請については、毎日休みなく研修に通って教育技術のレベルアップをはかってくれたことに対するボーナス(お年玉)というかたちで対応したこと、新しい女性教師2名の給与補助のこと、図書の出し入れの充実には図書カードの定着が役かっていること、また、前回の総会で質問のあった耳の不自由なサラーム君の治療後の様子についても報告いたしました(詳しくは「ばあーる」15号参照)。

〔活動計画〕内容についてはこれまでとかわりはありませんが、「子どもたちが安心して学習を続けられるための支援を行うとともに、アフガニスタンへの関心と理解が得られるように活動を行う」という大きな柱をあらためて掲げたことをお伝えいたしました。

次に会計の森より会計報告をいたしました。国内活動資金についてはできるだけ自助努力(事業収入、ポストカード売上、パネルリースその他)でまかない、会費や寄付はできるかぎり現地活動に充てていることなどもお伝えしました。その他ガソリン代が当初の予定よりもかからなかったこと、これには「日本から物を送らない、訪問時にできるだけ持参する」を徹底したことが間接的に大きく影響していることなども説明。会報発送費用はすべてご寄付いただいた切手や書き損じはがきでまかなえたことを感謝とともにご報告いたしました。また、2014年の活動終了時の貯金について説明、どのようなかたちで活動を終わるのか、予算に応じて、会員の皆さまにご相談して考えていきたい旨をお伝えいたしました。

【現地報告】***

2年ぶりにおとずれた山の学校の子どもの様子や代表の長倉がスライドトークで報告いたしました。明るく表情のサラーム君、ちゃめつたつぷりの新一年生をはじめ、日常生活のなかで喜怒哀楽に満ちた子どもたちの姿とエピソードを紹介するトークに会場は温かい雰囲気と笑いに包まれました。

以下、質疑応答の抜粋です。

Q ペルシャ語の本はどこで買うのですか？

A アフガニスタンのダリ語とイランのペルシャ語は発音がちがうので言葉としては同じなので本は読めるため、イランで使われているものを買っています。在日イランの方の里帰りの際に買ってきてもいい、イランに行った人に買ってきてもいいなどしていましたが、復興にとってもなつて、アフガニスタンでも買えるようになってきましたので、それを購入しています。(比留川)

Q 子どもたちの授業料はどうなっていますか？

A 無料です。(長倉)

Q 子どもがたくさんいて足が不自由で働くことのできないお父さんがある家で、年上の子どもたちを都会の学校へやっているとこの話でしたが、現金収入のないなかでどうやってやりくりしているのでしょうか？

A 「大家族主義」といいますか、親戚のネットワークがすごくあるんです。ですから、親戚のなかでビジネスがうまくいったり、役人になった人など、収入のある人がその一族のなかで将来性のある子どもにお金を出してあげて勉学に励める環境づくりを手伝うことがあります。同じように、生活が苦しい家庭を親戚が支えるということもあり、そういったカバーをしあえる社会なんですね。(長倉)

Q この会の方たちや子どもたちの親、先生たちは「教育」というものをどのようにとらえているのでしょうか？

A むずかしい質問ですね。マスドがつねづね言っていたのは「国の未来をつくるのは子どもたちだ」ということです。それが、私がこの学校を支援する大きなとっかかりのひとつでした。アフガニスタンの聡明な指導者たちは、教育は経済とちがって即効性がないけれども、国を

つくる大きな力になると強く理解していると思います。子どもたち自身は、学校にくるのが楽しいと思います。同世代の友だちと遊んだり、さまざまな知識を吸収できたり、いつも放牧の仕事をしている子どもたちにとつて学校へ来る時間はとても貴重です。そこではじめて、未来の夢を語るのことができるからです。子どもたちの未来への環境づくり、と考えています。(長倉)

Q 子どもたちへのプレゼントが鉛筆ではなくボールペンなのはなぜでしょうか？ 環境的に考えても使い終わったらゴミになるのでは？

A その通りだと思えますが、なぜボールペンかと申しますと、子どもたちも先生も鉛筆よりボールペンを好むのです。現地で売っている鉛筆はとにかくボロボロ折れる。ボールペンは最後まで確実にもつ、というんですね。環境問題という点についてはこれを機に考えたいと思いますが、そうすると日本からもつていくしかないかなあとあります。ただ、現地のものを買って現地にお金がかかるほうがいいんじゃないか、と考えていることもあり、今後の課題にしたいと思っています。(長倉)

ちなみに、山道を通学してくるの、リュックのなかで鉛筆が折れてしまう、ということもあるようです。新1年生には鉛筆を配っています。(比留川)

ガブール・安井浩美さん提供のアフガニスタングッズ





※質疑応答の内容を紙面でご紹介するにあたり、一部表現の補足や言い換え、要約をさせていただきます。

Q 質問ではなく提言なのですが、お話しされた地域がどのあたりにあるのかなどはじめて参加された方にもわかりやすいように、いわゆる「地図」を、会場や配布物に示すと思います。

A はい、その通りですね。次回には気をつけたいと思います。(長倉)

Q アフガニスタンの選挙で投票に行くにも命がけ、というニュースが流れましたが、ポーランドの人たちは今回の選挙のことをどんなふうに思っているのでしょうか？

A パンシールの投票率は高いですよ。ひとつにはタリバーンとずっと闘ってきた地域ということがあり、もうひとつには、マスド側近のアブドラ元外相が立候補していますから各地域の長老を中心にして、とにかく関心が高いです。ただ、南部ではタリバーンの妨害で投票できなかったところはかなりあると思います。私たちがニュースをみるときに、その国の人たちがいざばん平和を求めている、ということとを理解してみようと、私などは(かたよりがちな報道を)中和してみるができますね。(長倉)

大阪・現地報告会

10月17日(土)高槻現代劇場・市民会館集客室にて開催。運動会シーズンたけなわのなか、70名(会員33名・一般37名)の方々に参加していただきました。

開場時間の前から来場してくださる熱心な方もおられ来場者の出足は好調。開演時には用意した席がほぼ埋まるうれしい状況のなか、現地報告会はスタートしました。

長倉代表のスライド&トークでは、今春長倉代表が山の学校を訪問した際に撮った写真を映しながら、訪問時の楽しいエピソードに学校の様子や子どもたちの暮らしぶり、また当会の支援活動の具体的な内容について紹介しました。

日頃マスコミなどの報道では、なかなか報じられることのないアフガニスタンの人々の日常の姿に参加者のみなさんは熱心に見聞き入っておられました。

活動報告をする長倉代表



展示スペースには子どもたちの写真パネル、長倉代表のグッドアイデア(?)により多彩なテーマを描いた子どもたちの絵画、学年ごとに並べられた子どもたち一人ひとりを紹介するコーナーなどがあり、み

なさん熱心に見てくださったっていました。

なかでもアフガニスタン女性の手仕事で作られた衣装・小物類の刺繍の美しさに感激されていた方が多く、伝統文化の素晴らしさにふれていただくこともできました。

「フェアトレードで市場に出ることを楽しみにしています」というお声もいただき、実現できればほんとうに素敵なことだと思います。

また、写真集「カレンダー・ポストカード」などの販売コーナーは今回も盛況で、新しく出た子どもたちの描いた絵が使われているポストカード第6集をはじめとして、沢山の方々に購入していただき完売商品続出でした。(世間では財布の紐が固いと思われがちな関西人やけど、お金を出す価値のあるものには出し惜しみはしませんで！)

交流会では恒例となったカルダモン入りのアフガニティーにアフガニスタン産のレーズン・あんずや木の実のお菓子を囲んで、なごやかな歓談のひとときを過ごしていただけたようです。

会報やホームページでは伝えきれないことに、ふれられ知ることができ活動報告会、ぜひより多くの方に参加してみたいものですね。治安の悪化など以前よりも現地の状況は悪くなっているなか、ささやかであっても現地の人たちの交流を大切にしたい私たちの支援活動が今後も続けていけるよう願うばかりです。

(大阪運営委員 林・辻内・雨堤)



総会(東京)・現地報告会アンケートより

【総会】

※収支報告がわかりやすかったです。

※細やかな支援に感動しました。

※限られた予算の枠内で広範囲にわたって活動されていること、熱意と篤い行動力、慈愛に温かな眼差しと実質的な取り組みに感銘するものです。(一般参加)

【現地報告】

※子どもたちの様子だけでなく、先生方のことも伺えてよかったです。難しい環境のなかで少人数で授業を行うことはかなり熱意のいることだと思ふので、研修も受けておられるということでもよかったです。

※映像の力は大きい。具体的によく分かりました。

※「新聞などでニュースを見てみると、アフガンはどうして戦争ばかりなんだろう」と思ってしまったけれど、子どもたちの生活を見てみると、人々はずっと平和を願っていることを忘れてならない」とおっしゃった長倉代表の言葉が心に残りました。

【支援の会活動】

※活動も期限(10年)が見えてきて、これまでの経過と成果が見えてうれしくもあり、長倉さんのおかげでうれしくもあり、当初思っていたように、すまないアフガンの現実にも心が痛みます。でもこのままゆっくりでも未来を信じて続けて活動してほしいし、支援したいと思います。

※目的が明確で、それに添った地道な活動をしていると感じ、支援してよかったと思います。

※毎年現地へ行っているという。私は直接アフガンの人々とお会いしたことはありませんが、本を読んでいると「世界はアフガニスタンを忘れてしまった」ということばに出会うことが多かったのだ。

【交流会】

※なごやかでよかった。子どもたちも覚えてきて大きくなったなと成長を見守るのが毎年楽しみ。

※パネルの前で初対面の方と話が弾みました。

【自由記載】

※ニュースの裏にある、平和を願う気持ちを忘れないようにしていきたい。

※私の祖母は学校教育を受けていなかったの、「学校というのは無前提によいもの」という考えを持っていました。山の学校の子どもたちが、広い世界を知り、さまざまな選択肢のなかから生き方を考えることができるようになってほしいなと思います。学ぶ子どもたち同様、働く姿にも毎回胸を打たれます。

※環境問題について発言された方がいました。もっともだとは思いますが、日本と同じようにそのような問題を扱うのはなかなか酷というか、そんな気がします。現地にお金を落とすのもとても大事ですね。

※子どもたちの笑顔が消えないために戦争はもうあつてはいけません。明るい未来を見つめられること心にとぎさしました。(一般参加)

好評発売中!

ポストカード

第5・6集 (9月13日発売)

第5集 3枚1セット(長倉代表の写真)

第6集 5枚1セット(子どもたちの絵) 各500円

子どもたちの描いた絵が、新たに第6集として加わりました。

*収益金はすべて会の活動費に充てられます。

【購入方法】

お申し込みのセットの組み合わせにより送料が異なりますので、ご注文の際は事務局にお問い合わせください。送料をお伝えします。その後、ポストカード代金に送料を足した金額を郵便局よりお振込みください。2セットよりご注文を承ります。

●代金

(500円×セット数)+送料(事務局にお問い合わせください)
=合計金額

●振込先

口座名義(加入者名):アフガニスタン 山の学校支援の会
郵便振替口座番号:00160-1-667404

通信欄に、1)「第△集を〇〇セット希望」、2)郵便番号・ご住所・お名前・電話番号を明記してください。お振込みを確認し次第できる限り早くお送りしますが、場合によってはお届けまである程度日数を要することがあります。どうぞご了承ください。



長倉洋海撮影2010年カレンダー 子どもたちの大地

日本国際ボランティアセンター(JVC)から、長倉さん撮影の2010年カレンダー「子どもたちの大地」を好評発売中です。アフガニスタンの他、アンゴラ・イエメン・キルギスなど世界各地で長倉さんが出会った子どもたちの笑顔を、私たちも毎月目にすることができます。カレンダーの収益はJVCを通してアジア・アフリカ・中東の人々の生活改善に使われますが、お申し込みの際に「山の学校の会の会員です」、「長倉洋海ホームページで見た」と明記していただければ、収益の一部は山の学校の会に割り当てられます。

購入ご希望の方は、下記いずれかの方法でお申し込みください。

・JVC国際協力カレンダーのURL

<http://www.ngo-jvc.net/calendar/>

・JVCチラシに添付されているハガキ

(チラシは、ばあー前号に同封)

・E-mail: calendar@ngo-jvc.net

・電話: 03-3834-2388

・FAX: 03-3835-0519



カレンダーの価格とサイズ

・卓上型: 1200円

(20cm×15cm) * 卓上のサイズ。壁に掛けることも可能

・壁掛け型: 1500円

(56cm×38.5cm) * 広げて壁に掛けた状態のサイズ



* 別途送料がかかるので、お申し込みの際にご確認ください。
* 日本国際ボランティアセンターは1980年に発足し、現在アジア・アフリカ・中東の10か国で支援活動を行っている団体です。国内でも様々な活動をされているので、ご興味のある方は、JVCホームページ <http://www.ngo-jvc.net/> をご覧ください。

● 第6回総会で配布した資料を同封いたしました。内容をご覧になり、ご意見やご感想などがございましたらぜひお寄せください。

● 2009年度分割会費未納の方に郵便振替用紙を同封させていただきました。指定期日までに納入をお願いします。なお、封筒の宛名ラベルの下段の数字は会費3万円から納入済み金額を差し引いた残額です。お確かめください。

● 過去4年間、会報発送の送料はすべてご提供くださった不要切手、書き損じはがきを使わせていただき大変助かっておりましたが、いよいよ底をついたため今回は送料の約半分が実費となりました。ご提供に感謝するとともに今後とも引き続きご協力をよろしくお願い致します。

● JICA地球ひろば(独立行政法人国際協力機構広島センター)に団体登録いたしました。これを機にアフガニスタンや本会の活動をさらに多くの方々にお知らせできればと思います。

● 住所変更の場合は、お手数ですが事務局にご連絡をお願いします。

事務局から

☆ 医師者
ムルサルちゃん 6歳(1年生)



☆ 社長
ルビナちゃん 7歳(1年生)



☆ 医師者
フィラドゥンくん 8歳(3年生)



☆ 警官
アブドラテーフくん 6歳(1年生)

ポランデの小さな仲間たち

アフガニスタン 山の学校支援の会は、写真家・長倉洋海が取材活動を通して出会った、ハンジール渓谷ボーランド村の子どもの教育支援を目的として設立された非営利の団体です。2004年2月に設立、以後2014年3月までの約10年間にわたり活動を続けていきます。